

◆授業設計のポイント◆

- ・ コミュニケーションツールとしての英語を深く理解させるための工夫
- ・ 思考を広げ深める対話的な言語活動の工夫
- ・ 学習プロセスの構成による見通しと振り返りの充実

英語科学習指導案

学 級 1年4組(男子20名女子19名計39名)

場 所 1年2組教室(1年校舎1階)

授業者 教 諭 村 上 奈 菜 絵

1 単 元 名 Sunshine English Course 1 : Program 3 ウッド先生がやってきた

2 単元について

本単元では、教室にALTがきて、あいさつ、自分の名前、出身、自分が好きなことなどを紹介する内容である。言語材料としては、一般動詞の肯定文、疑問文、否定文を扱っている。自分の好きなことや日常することなどを述べることや、相手に尋ねたり答えたりすること、自分の好きでないものを述べることができるようになることをねらいとしている。さらに、友達に質問をしたり、それに応答したりすることでコミュニケーション能力が高まり、新出表現の使用場面への理解も深まると考える。

本学級の生徒は、男女ともに仲がよく、様々な活動に協力して取り組む様子が見られる。グループや学級全体で活動する際には一人一人が意欲的に活動に参加できる。また、外国語に関心がある生徒が多く、英語で相手とコミュニケーションを図ろうとする雰囲気がある。一方で、全体の場での発表に苦手意識がある生徒や、特別な支援を要する生徒も数名おり、活動が停滞する場面も見られる。

指導にあたっては、小学校の外国語活動で育んだリスニング、スピーキング力を生かした活発な言語活動を行いたい。対話をより円滑に進めるために、イラストを含んだTalking Sheetやカードを使用し、小中連携の視点から、イラストと単語や文章を関連づけて練習させるようにする。また、ペアでの質問のやり取りを通して気付いたことや追加したい表現をカードに付け足し、よりよい自己紹介になるように情報を取捨選択させる。カードをヒントに自己紹介をさせることで、英語で話すことに苦手意識がある生徒の発話を促したり、自己紹介の順番を自分で再構成させたりする。このような過程を通して、まとまりのある自己紹介ができるようにしたい。質問をするために相手の話をよく聞くことやそれに反応することで、発表をしやすい雰囲気づくりに努めたい。積極的にコミュニケーションを図ることの大切さや、英語で表現することの楽しさを生徒に実感させ、失敗を恐れずに新しい表現に挑戦する態度を育みたい。

3 単元の目標

- (1) 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の意味・形・用法を理解し、活用することができる。
- (2) 自分の名前や好きなもの、日常することについて、必要な表現を使用して自己紹介をすることができる。
- (3) 自分の好きなことなどを、相手に分かりやすく自己紹介をしようとしている。

4 単元の指導計画(全6時間) ()は本時扱い

【Goal of Program 3 : ALTに自分のことを伝えよう】

時	過程	「学習課題」と主な学習活動	指導上の留意点 ○ 汎用的な資質・能力
第1時	課題の把握・見通し	「Program 3 で学ぶ内容をイメージしよう」 ・ スキーマの形成 ・ 学習課題の確認と課題解決への見通し Program 3-1 ・ 基本文の理解	・ ビデオを活用して、単元の見通しを立てさせる。 ・ アクションカードを使用して、like, play などの一般動詞を理解させ、パターンプラクティスをさせる。 ○ 課題発見力 レベル2

第2時	課題の追究	Program 3-1 「ウッド先生の自己紹介を理解しよう。」 ・ 基本文の復習 ・ 本文の内容理解 ・ カード作成①	・ 自己紹介をする時には、どんな情報を伝えたらいいか考えさせる。 ・ ウッド先生の自己紹介を読み、どんな情報を説明しているか理解させる。
第3時		Program 3-2 「自分の好きなことや、ふだんすることを言えるようになるろう」 ・ 基本文の理解 ・ カード作成②	・ アクションカードを使用して、一般動詞の意味を想起できるまでパターンプラクティスをさせる。 ・ 個人で自己紹介用のカードを作成させる。
第4時		Program 3-2 「ウッド先生の自己紹介と質問への答えを参考に、自己紹介を考えよう」 ・ 基本文の復習 ・ 本文の内容理解 ・ 自己紹介練習	・ ウッド先生への質問内容とその答えを読み取らせる。 ・ カードを使用して、自己紹介の練習をさせる。
第5時		言語活動：自己紹介の再構成（ペア学習） 「互いに質問をして、まとまりのある自己紹介にしよう。」 ・ 自己紹介の再構成	・ ペアでのやり取りを通して内容を再構成させ、まとまりのある自己紹介になるようにする。 ・ 情報活用力 レベル1
第6時		言語活動・学習のまとめ 「ALTに自分のことを伝えよう」 ・ 自己紹介の発表活動をする。 ・ 良い点や改善点をワークシートに記入する。	・ 個人や小グループでALTに自己紹介をさせ、質問等のやり取りをさせる。 ・ 学習を通して得た知識や気付き、反省や課題をリフレクションシートに記入し、グループ、学級で共有する。

5 単元における評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の意味・形・用法を理解している。 2 その表現をコミュニケーション活動において活用できる技能を身に付けている。	1 自己紹介をするために必要な表現を選択して使用することができる。 2 自分の好きなことや日常することをジェスチャー等を用いながら適切な表現で相手に伝えることができる。	1 本文の内容理解を通して、自己紹介に必要な表現への理解を深めようとしている。 2 伝えたい内容を整理して、分かりやすく自分のことを伝えようとしている。

6 本時の実際（5／6）

(1) 題 材 Program 3 ウッド先生がやってきた

(2) 目 標

ア 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の意味・形・用法を理解し、活用することができる。

イ 自己紹介をするために、新出、既習事項を使って相手に伝えることができる。

ウ 自分の好きなことなどを含めた自己紹介を相手に分かりやすく伝えようとしている。

(3) 授業設計の工夫

ア コミュニケーションツールとしての英語を深く理解させるための工夫 **研究の視点1**

本単元では、ウッド先生の自己紹介を参考に、聞き手を引き付ける自己紹介の仕方を学び、情報を付け加えたり削除したりしながら、英語での自己紹介をまとめ、それが書けるように指導する。小学校の外国語活動とのつながりも意識して、生徒に既習の内容を想起させながら、まずは自己紹介をさせ、その後、よりよい自己紹介にするためにどのようにしたらよいか課題を発見させるようにした。また、他者を意識して英語を話す必然性をもたせるために、「ALTに自分のことを伝えよう」という学習課題を設定し、深い理解に至った姿を【情報を取捨選択し、相手に分かりやすく自分のことを伝えることができる姿】とした。

本時では、授業の中での生徒の思考を「気付き」、「納得」、「意志」の過程で具体化し、自己紹介の

言語活動の中に、ペアで表現を再構成する時間を設定することで、深い理解に至った姿へ導くように計画を立てた。

【深い理解に至った（目標とする）姿】

自己紹介 例) 英語学習に苦手意識のある生徒も 5文は言えるように I'm Taro Ishiki. I am from Ishiki Higashi. I like music. I play the piano. I don't like manga.	自己紹介（第6時） 例) 最終的に肯定文、否定文を含む8文以上言える I'm Taro Ishiki. I come from Ishiki Higashi. I speak English and French. I like music very much. I play the piano. I like Japanese culture. I love Japanese food. I don't like manga. But I watch Japanese anime.
---	---

イ 思考を広げ深める対話的な言語活動の工夫 **研究の視点2**

イラストを多く用いたスライドや Talking Sheet を使用することで、イラストと音声を結びつけることに加え、文字指導を終えたばかりの一年生でも口頭で言える表現と文字による英語表現とを結びつけて理解し、発話できるようにする。また、ペアで自己紹介をした後に、互いに質問をし合うことで、まとまりのある自己紹介ができるようにする。本時では、カードや Talking Sheet を活用することで自己紹介とそれに対する質問のやり取りにおいて意欲的な発話を促すことを目指した。さらに、言語活動とモデルの確認後に、生徒自身の「気づき」を生かして、必要な情報を追加や削除したり、伝える順番を入れ替えたりするなどの再構成をすることで、よりよい自己紹介に練り上げられるようにしたい。

ウ 学習プロセスの構成による見通しと振り返りの充実 **研究の視点3**

リフレクションシートを活用し、学習の振り返りと次時への意欲を高められるようにした。また、再構成のモデル提示のタイミングを、生徒の言語活動後に設定することで、生徒の小学校での学びを生かしながら、どのような自己紹介にすればよいのかという見通しをもたせるようにした。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

情報活用力 レベル1 「課題を解決するために、どんな情報が必要か考えることができる」	
【生徒の姿】 - 友達に質問されたスポーツについても自己紹介に入れてみようかな。 - 自己紹介の途中で相手に質問をしてみようかな。 - ALT はゲームが好きって言っていたから like を使って好きなことを伝えようかな。	【手立て】 ペアで自己紹介をさせ、互いに質問をさせることで自己紹介の内容を深め、使える英語表現や情報が増えるようにする。また、カードや Talking Sheet を活用し、円滑な発話、対話ができるようにする。

(5) 展 開

時間 (分)	学習過程	主な学習活動 予想される生徒の思考	○ 指導上の留意点 ◎ 評価
5	1 Greetings 2 Warm-up	1 あいさつをする。 2 Talking Sheet を使って、対話を練習する。	○ 英語学習の雰囲気をつくる。 ○ テンポ良く活動させる。 ○ リアクションをさせる。
40	3 Review 4 Today's Goal 互いに質問をして、まとまりのある自己紹介にしよう。 5 Teacher's model 「気付き」研究の視点1 ・アイコンタクト、ジェスチャーをすると伝わりやすいな。 ・"Are you ~?" "Do you ~?" "How about you?" など相手に質問をしてもいいな。 ・"And," を使うと文が自然につながり、"But," の後は反対の意味を表すんだな。 6 Activity 「納得」研究の視点1 ・話す内容の順番を工夫することで分かりやすくなるな。 ・具体的なことを言うと言説力が増す気がするぞ。 ・好きでないことや、ふだんしないことを入れると表現が広がるな。 ⑥ 自分が話した英文をワークシートに書く。	3 リフレクションシートを用いて、前時の振り返りをする。 4 本時の目標を確認する。 5 モデルの確認をする。 ・良かった点をペアで話し合い、共有をする。 6 自己紹介を再構成する。 ① 自己紹介の表現を練習する。 ② ペアで自己紹介と質問をし合う。 ③ 気付いたことや追加したいことをカードに書く。 研究の視点2 ④ 教師のモデルを見る。 ⑤ モデルを参考に再度自己紹介の構成を考える。	○ 目的意識を持って活動に参加できるようにする。 常 課題発見力 レベル1 ○ カードを使いながら自己紹介のモデル示し、生徒にリアクションや質問をさせる。 ・カードをヒントに、できるだけ多くの文を使わせる。 ・ペアを変えて複数回練習させる。 ○ ペアで互いに質問をさせ、気付いた良い表現やキーワードをカードに追加し、段階的に英文を増やしたり、削ったりできるように練習させる。 重点 情報活用力 レベル1 ・カードをヒントに自己紹介の文を並べ替える。 ◎ 伝えたい内容を整理して、分かりやすく自分のことを伝えようとしているか。(ウ-2)
5	7 Reflection 「意志」研究の視点1 ・言えなかった英語表現の確認をしてみよう。 ・次はトニー先生に自分のことを分かってもらえるような自己紹介ができるといいな。 ・もっと大きな声では言えるといいな。ジェスチャーをつけると伝わるかな。 8 Notice 9 End	7 学習の振り返りをする。 研究の視点3 8 次時の予告と家庭学習の指示を聞く。 9 終わりのあいさつをする。	○ リフレクションシートを用いて、自己評価をするとともに、次時への意欲づけを図る。 常 メタ認知 レベル2 ○ 学習の見通しをもたせ、次時への学習意欲を喚起する。